

番外編

# 成均館大學 語学院

文学部 日本語日本文学科 3年 小里麻由美

祥明大學の学期は12月で終わってしまい、帰国までに2ヵ月ほど時間が余ってしまいました。そのため、申請をして成均館大學の語学院に通うことにしました。



←成均館大學の校舎

成均館大學は1369年に朝鮮王朝唯一の国立大学として設立された成均館の流れを引いた大学<sup>1</sup>です。ソウルキャンパスの敷地内には昔の成均館の建物が残されています。



所属した4B班のクラスメートです。(私は後列左から2番目です。)この日は軍隊についての座談会があり、後列中央の韓国人学生2名を招いて、軍生活について話を聴きました。



この日は、語学院の文化行事で市庁にある劇場で MISO(微笑)という演劇を観ました。『春香伝』という物語を伝統的な音楽に合わせて演じたものです。特にパンソリ(独特な手法で歌う人)の演技と声が素晴らしく、芸術は言葉の壁を超えるのだなと感心しました。

これは旧正月の時の写真です。台湾の留学生に招待してもらって台湾風旧正月の過ごし方を教わりました。台湾でも旧正月には日本でいうお雑煮のようなものを作って食べるそうです。そして、お年玉をかけて夜通しトランプをします。子どもころから鍛えられている彼女たちになす術もなく完敗でした。そして、この日一番感動したのは、タピオカジュースは手作りできるということでした。



授業は週5日(平日)1日4時間(会話2時間、文法2時間)で、授業後は時間が余ってしまいます。私はアルバイトもしていませんでしたので、こんな風に友達と近所のカフェでその日に習った内容の復習をし、有意義な時間を過ごしました。

住んでいた家の隣に映画館があったので、夜になるとよく一人で映画を観に行きました。韓国では映画を一本 800 円程度で観ることができるので、韓国に留学される方はぜひ通われてください。ちなみにこの日は右下の写真の映画を観たのですが、ホラーラブコメディだったせいか、周りにはカップルしかいませんでした。



こんな留学生活も終わりにさしかかった頃、祥明大學でよくしてもらった 한재현(ハン・ジェヒョン)さんのお宅に遊びにいきました。そして一緒に韓国の南西に位置する全羅道光州市と 재현さんのお家がある 順川市を旅行することとなりました。光州市は 1980 年 5 月 18 日に起きた光州事件で有名ですので、まずその博物館に行きました。光州事件とは時の大統領が激しくなる民主化運動に対して、軍の力で制圧しようとした、つまり軍が市民に銃を向けた衝撃的な出来事です。とても悲しい歴史ですね。左下の写真はその時に亡くなった方々の名前が彫られた慰霊碑(中にはまだ小学生だった人もいます)、右は記念館にある慰霊塔です。



そして順川市では順川湾とドラマ村に行きました。順川湾は世界5大沿岸湿地で、ドラマ村は実際にたくさんのドラマの撮影地として使われたセットが残されています。



そして、この旅一番の衝撃だった、順川市で食べた全羅道名物「팥죽」(パッチュク)。甘くないぜんざいのスープの中にうどんのような麺(ククス)が入っています。日本ではあり得ない組み合わせの料理ですが、食べてみると意外とあっさりしていました。



### ～まとめ～

冬休みの間、このように語学院に通いつつ、ここでは紹介しきれないほど色々な所に行ってきました。その途中で、祥明大学の日本語文学科の류경자(リュ・キョンジャ)先生や양동국(ヤン・ドングク)先生、日本語文学科の助教のお姉さん、そして日本語文学科を卒業した先輩もわざわざ時間を作って、会いにきてくださいました。祥明大学の寮は学期が終わって少しすると全員出て行かないといけないので、最後の2ヶ月間ソウルで独り暮らしをすることになりました。そのため皆さん気にかけてくださったのかもしれませんが、本当に最後の最後まで面倒を見ていただいて、申し訳ないやら嬉しいやら…。ともかくいい方々に守られるような形で一年を過ごし、その中でたくさんの出会いがありました。そしてその分たくさんの別れがありました。もう二度と会えない人もいるでしょう。それでも韓国で出会った人々が見返りを求めずに手助けしてくださったことは絶対に忘れません。特に海外で家族や友達と離れて生活することがどれだけ心細いかは、よく分かっているつもりですので、今度は私が県立大学に来た留学生たちをサポートして、わずかでも恩返しの代わりにしたいと思います。韓国で学んだ一番大きなものは、助け合いの心かもしれません。